

九十九さん(行橋出身)初の絵本

バルセロナ在住の画家

生命誕生と母性描く

行橋市出身でバルセロナ在住の画家、九十九伸一さん(55)が、初めての絵本「てんしとカノーネ」(A4変形判、30頁)を、山口県

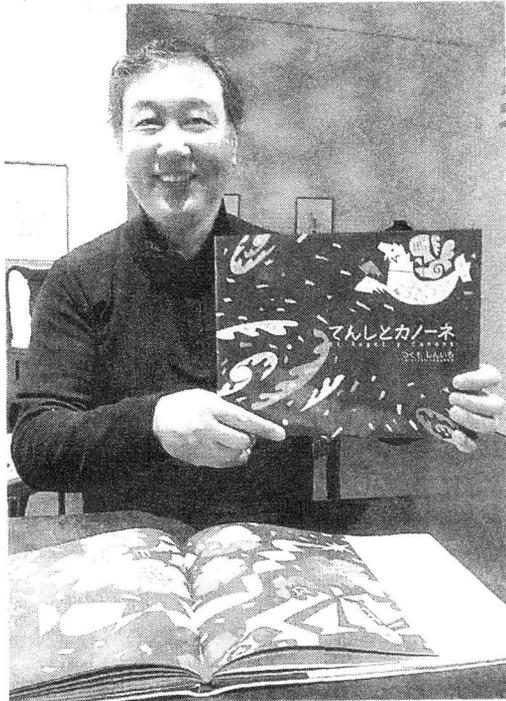
内容。九十九さんは07年に死去した母(千代子さん、享年86)を思い浮かべ制作したと言う。

と新しい生命が誕生し、母親の心音が優しく響く——という筋書き。「四次元の時空と呼ばれる無限の広がり

下関市の画廊経営企業、ノマ企画から出版した。生命誕生の喜びや、無限の愛で子を包む母性をテーマにした

無限の宇宙を旅する天使を乗せて流れ星と、光のトンネルに出会う。トンネルを抜け

1冊2100円。行橋市のギャラリー、ラヴー亭(0930・22・333883)などで販売中。同市門樋町の行



初の絵本「てんしとカノーネ」を手にする九十九さん

を感じさせる画風を存分に発揮した一冊だ。九十九さんは九産大院(芸術学部)卒後に渡欧。個展を続け、01年のスペイン国際現代美術展で国王が興味を示した芸術家10人の1人に選ばれた。

一時帰国中の九十九さんは「渡欧する際、ナイフとフォークを贈って応援してくれた母は、この絵本を喜んでくれると思う。絵本にすることで多くの人に覚えてもらえるのではないか」と話す。

橋カトリック教会で28日午前11時ごろ、出版記念サイン会があり、売り上げの一部を同教

会が支援するフィリピ
ン・ミンダナオ島の子
供図書館に贈る。

【降旗英峰】